

2023年3月6日
ISOパネル（第7回）

生体認証技術の 金融サービスへの活用

富士通株式会社
コンバーGINGテクノロジー研究所
ソーシャルデザインPJ プロジェクトディレクター
上席研究員(バイオメトリクス)
山田 茂史

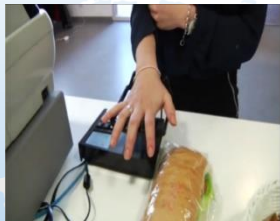
FUJITSU



(a)生体認証技術の金融サービスへの活用事例

グローバルで利用される手のひら静脈認証

EMEIA
2,000
万人



手ぶら決済



ATM

北米
3,200
万人



患者認証



医療保険
利用者確認

アジア
2,500
万人



個人情報アクセス

南米
2,300
万人



年金受給者
生存証明

世界約60ヶ国、1億人に利用される技術

全世界の静脈認証利用者の8割は手のひら静脈認証を使っています

金融サービスへの活用事例

日本

ホットなサービスをお届けする
★ 大垣共立銀行

- 用途：カードレスATM
(生年月日+手のひら+PIN)
- 効果：利便性の向上
- 開始：2012年
- 利用者数：50万人以上



韓国

- 複数の金融機関で生体データが共有される 生体認証プラットフォームを構築
- 一度の登録で銀行やカード決済等で利用可能
- 韓国内空港での認証と相互運用
- 開始：2018年

KB 国民銀行 SHINHAN BANK K bank



ブラジル



Bradesco



- 用途：年金受給者の生存証明、生体認証ATM(カード+PIN+手のひら)
- セキュリティ、利便性の向上
- 開始：2007年
- 利用者数：23百万人以上

台湾



永豐銀行

- 用途：窓口本人確認、生体認証ATM
- 効果：窓口効率化85%向上、顧客利便性向上
- 開始：2019年



(b) 今後の生体認証技術の金融サービスへの 活用の展望と国際標準の活用

富士通は生体認証で「つながる世界」を創ります

何も持たず、身一つで世界中のサービスを
ボーダーレスに活用

スムーズな行政手続きや
手ぶらでのお買い物などを、
一度の生体登録でシームレスに

富士通が目指す、 生体認証が創る未来

○今後の金融サービスへの活用の展望

- 生体データを一度登録したら、どこでも同じように認証できることが理想像
- サービスで個別に活用されるだけでなく、異なるサービスで相互運用できることが望ましい
- さらに、金融サービスに閉じずに、他領域のサービスとも相互運用できることが期待

○国際標準の活用

- さらなる生体認証技術活用の広がりに向けて、セキュリティの確保のため、19092(サービス)、19795シリーズ(認証精度)、30107シリーズ(提示攻撃検知)を始めとする国際標準の活用が増していく
- 相互運用の際のセキュリティ確保、セキュリティレベルの考慮などが今後必要

Thank you

